



**Tohoku Univ.**  
Dept. Hematology  
and Rheumatology

# 血液免疫科 ニュースレター

Vol. 17  
(2015年11月)

【発行元】 東北大学 血液・免疫病学分野 (東北大学病院 血液免疫科)

Address: 〒980-8574 仙台市青葉区星陵町1-1 Tel: 022-717-7165 / Fax: 022-717-7497

Homepage: <http://www.rh.med.tohoku.ac.jp/>

## 巻頭言

しばらく、血免ニュースの配信が遅れてしまいました。申し訳ありません。仙台は急に寒くなり、定禅寺通りのケヤキも散り始めています。木枯らしの声を聞くのも程なくと思います。

私自身の近況をご報告申し上げますと、依然として学内外の仕事で忙しい日々を過ごしています。なかでも、多くの時間を割かざるを得ないのが、副病院長としてのエフォートです。消費税増税や医療経費の増大で全国の国立大学病院が軒並み赤字を計上していますが、東北大学病院も例外ではなく、経営担当としてかなり頭の痛い日々を過ごしています。

さらに、最近仕事量として増えてきているのが新専門医制度対応です。2017年から新専門医制度が始まり、昨年の卒業生からこの制度に則った専門医を取得していきます。現在私は、東北大学病院内科専門医プログラムの責任者であるとともに、日本血液学会の専門医プログラム策定責任者でもあります。前者としては東北大学病院の関連病院を取りまとめた研修施設群を構築し、専門医機構が要求する症例経験が担保されるようなプログラムを作成しなければなりません。後者としては、血液内科専門医の新しい整備基準・マニュアルを作成しなければなりません。その作業には専門医認定要件だけでなく、専門医更新要件、指導医要件、認定施設要件、モデルプログラム作

成、症例登録システム構築など数々の難問が積み上げられています。いずれも、東北大学病院の将来、日本血液学会の将来を左右する重要な任務であり、相当重い肩の荷ですが、関係各位の協力を得て作業を進めていきたいと思えます。

なお、この新専門医制度の対象となる現在初期研修一年目の先生方、医学生にとっては、初期研修終了時にどの内科専門医プログラムに登録するかが、とても重要です。東北地区の関連病院はほとんどが東北大学プログラムの連携病院として研修施設群に入る予定なので、現状とあまり変わることなく大学病院との行き来が可能ですが、関東以西の東北大学プログラムに加わっていない病院で内科専門医プログラムの登録をしてしまうと東北大学病院と連携がないので、内科専門医プログラム研修中は東北大学に戻れないこととなります。プログラムを作成するだけでは片手落ちで、このような情報を発信・浸透させていくのも重要なタスクと考えています。

巻頭言がかなり偏った内容になってしまいましたが、学術的なこと、臨床的なこともアクティブに行っておりますので、ご安心ください。この号で紹介していますように、日本血液学会でも多くの発表を行いましたし、ACR、

## 今号の内容

巻頭言	p1
血液免疫病セミナー ご案内	p2
日本血液学会総会 参加報告	p2
イベント報告 ～芋煮会～	p3
人事異動	p4
業績紹介	p4-5

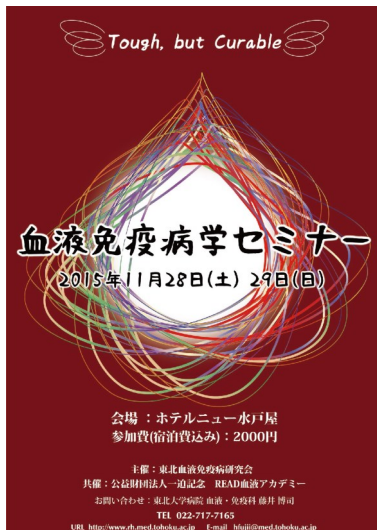
ASHでも複数の演題が採択されています。また昨年度から認定された造血幹細胞移植推進拠点病院としても、多くの研修プログラムや広報活動を進めています。ちなみに、次号の東北大学病院広報誌「Hesso」の特集は造血幹細胞移植です。大学病院以外でもご覧頂ける広報誌ですので、是非ご一読ください。部数に余裕があるようでしたら、先生方にもお送りしたいと思います。

今年も残り少なくなりました。くれぐれもご自愛のほどを。

(張替 秀郎)



## 血液免疫病セミナー ご案内



本年度も恒例の血液免疫病セミナーを11月下旬に開催いたします。case conference などの企画を含め、血液・免疫疾患の実践知識と未来への展望を研修医・学生の皆さんにお届けするべく、充実した内容を準備しております。また、夜には恒例の宴をご用意いたしておりますが、例年、各研修病院の研修医の先生の良い情報交換の場にもなっているようです。御多忙の中とは存じますが、研修医の先生方とともに関連病院の先生方にも多数ご参加頂ければ幸甚に存じます。

【日時】 平成27年11月28日(土) 12:00 ~ 11月29日(日) 10:00

【会場】 ホテルニュー水戸屋

〒982-0241 宮城県仙台市秋保町湯元字薬師 102

TEL; 022-398-2301 / FAX; 022-398-2242

## 学会参加報告 ~日本血液学会総会~

10月16~18日の日程で、第77回日本血液学会総会が金沢で開催されました。例年、横浜・京都・大阪を中心に概ね同じ場所での開催が多かった本学会ですが、今年はちょうど春に開通したばかりの北陸新幹線を利用できる良い機会となりました。

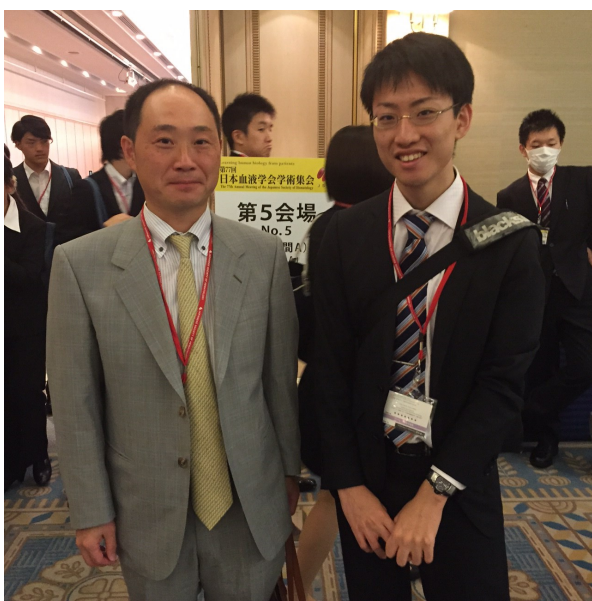
当分野からは計7題の口頭発表を行いました。臨床系では、齋藤慧先生による眼内リンパ腫の報告、大橋圭一先生による臍帯血移植後の血球貪食症候群に関する報告、福原規子先生による次世代シーケンサーを用いた白血病の微小残存病変検出についての報告、大西康先生による多発性

骨髄腫に関する臨床研究の報告が行われました。基礎系では、医学部4年の櫻井一貴さんによる本態性血小板血症の治療薬であるAnagrelide (アグリリン) の作用機序についての基礎検討の報告、輸血細胞治療部の岩木啓太さんによる多発性骨髄腫の新たな微小残存病変検出の試みの報告、斎藤陽先生による新規GATA-2制御因子の網羅的探索に関する報告が行われました。岩木さんは英語のセッションで発表することになり、直前まで輸血部の業務の合間に発表練習に追われてしまう形となりましたが、本番は大変落ち着いた発表ぶりでした。また櫻井さんの演題については、学会後の反響が非常に大きかったと伝え聞いております。

私は赤血球関係のセッションを中心に回ったのですが、意外にも(?) いずれもかなり盛り上がりを見せており、今後の励みになりました。その他、JSH学会賞を受賞された東京大学の中内啓光先生の幹細胞ニッチに関する講演が印象的でした。

学会会期中は天候にも恵まれ、金沢観光においても絶好のタイミングでした。個人的には金沢の街を十分に観光しきれなかった点がやや心残りでしたが、全体としては有意義な学会参加となりました。

(藤原 亨)





## イベント報告 ～芋煮会～

11月3日、晴天の中、「東北大学病院 東14階病棟 血液免疫科 大芋煮会」が、牛越橋下、広瀬河畔を会場として開催されました。血液免疫科の病棟である東北大学病院の東14階病棟のスタッフと、血液免疫科のメンバーに、SGTの学部学生や、関連病院の先生方も参加され、多数のご家族の方々にもお集まりいただき、総勢50名となりました。

大空の下、河原のすがすがしい空気の中、山形風と仙台風の大変おいしい芋煮をいただきました。山形市立病院の木村先生のご尽力により、現地でのパスタ料理、さんま焼き等の今までにない展開の芋煮会となり、テレビ放送に取り上げられるまでとなりました。

また、張替教授、師長さんをはじめとし、多くの方々か



ら素晴らしい差し入れを多数いただき、まさに大芋煮会となりました。共同作業での火おこしなどの準備も非常に楽しく、芋煮づくりの醍醐味を味わえるものとなりました。仕事以外での表情が見られ、ご家族を交えた交流ができました。日本全国や外国でも、芋煮会での交流が「イモニケーション」と呼ばれるようになり、そのよさが認識されているそうです。今後、医療の土台となるチームワークやコミュニケーション、または医療以外での交流もよいかもしれません。これらが芋煮会をきっかけに、実りのあるものとなればうれしく思います。準備などにおかれましても、非常に忙しい中、ご協力いただいた多数の先生方や看護師さんのやる気に満ちた表情や、声掛けは、忘れられないものとなりました。多くの方々の参加、ご協力に感謝いたします。

(小林 匡洋)





## 人事異動

2015年5月～10月の当科の人事異動についてお知らせいたします。

### 【10月】

市川 聡 (大崎市民病院 血液内科 副科長 → 東北大学病院 血液免疫科 助教)

小野寺 晃一 (東北大学病院 血液免疫科 医員 → 大崎市民病院 血液内科 医員)

八田 俊介 (博士課程卒 → 東北大学メディカルメガバンク クリニカルフェロー)

\* 10月～12月 南三陸診療所勤務

## 業績紹介

2015年1月～10月の当科からの発表論文をご紹介します。

1. Nakamura K. et al.  
NLRP3 inflammasome activation by cellular labile iron.  
Exp Hematol (in press)
2. Ichikawa S, et al.  
Advanced lymphocyte-rich classical Hodgkin lymphoma complicated with fatal hemophagocytic syndrome.  
Intern Med (in press)
3. Yoshida M, Watanabe R, Ishii T, Machiyama T, Akita K, Fujita Y, Shirota Y, Sugimura K, Fujii H, Shimokawa H, Harigae H.  
Retrospective analysis of 95 patients with large vessel vasculitis: a single center experience.  
Int J Rheum Dis. 2015 Oct 7. doi: 10.1111/1756-185X.12777.
4. Saito Y, Fujiwara T, Ohashi K, Okitsu Y, Fukuhara N, Onishi Y, Ishizawa K, Harigae H.  
High-Throughput siRNA Screening to Reveal GATA-2 Upstream Transcriptional Mechanisms in Hematopoietic Cells.  
PLoS One. 2015 Sep 1;10(9):e0137079. doi: 10.1371/journal.pone.0137079. eCollection 2015.
5. Watanabe R, Ishii T, Harigae H.  
Pretreatment Screening for Hepatitis B Virus Infection in Patients with Systemic Lupus Erythematosus.  
Tohoku J Exp Med. 2015;237(1):9-15. doi: 10.1620/tjem.237.9.
6. Watanabe R, Ishii T, Yoshida M, Takada N, Yokokura S, Shirota Y, Fujii H, Harigae H.  
Ulcerative keratitis in patients with rheumatoid arthritis in the modern biologic era: a series of eight cases and literature review.  
Int J Rheum Dis. 2015 Jul 14. doi: 10.1111/1756-185X.12688.
7. Tomiyama F, Watanabe R, Fujii H, Kamogawa Y, Fujita Y, Shirota Y, Nakamichi T, Sato H, Ishii T, Harigae H.  
Synovitis in a Patient with IgG4-related Disease.  
Intern Med. 2015;54(11):1427-32. doi: 10.2169/internalmedicine.54.4320.
8. Ishizuka M, Watanabe R, Ishii T, Machiyama T, Akita K, Fujita Y, Shirota Y, Fujii H, Harigae H.  
Long-term follow-up of 124 patients with polymyositis and dermatomyositis: Statistical analysis of prognostic factors.  
Mod Rheumatol. 2015 Jun 13:1-6.
9. Watanabe R, Fujii H, Kamogawa Y, Nakamura K, Shirai T, Ishii T, Harigae H.  
Chronic lupus peritonitis is characterized by the ascites with a large content of interleukin-6.



Tohoku J Exp Med. 2015;235(4):289-94. doi: 10.1620/tjem.235.289.

10. Ichikawa S, Ichikawa S, Ishikawa I, Takahashi T, Fujiwara T, Harigae H.  
Successful treatment of acute promyelocytic leukemia with a t(X;17)(p11.4;q21) and BCOR-RARA fusion gene.  
Cancer Genet. 2015 Apr;208(4):162-3. doi: 10.1016/j.cancer.2015.01.008.
11. Watanabe R, Ishii T, Araki K, Ishizuka M, Kamogawa Y, Fujita Y, Shirota Y, Fujii H, Harigae H.  
Successful multi-target therapy using corticosteroid, tacrolimus, cyclophosphamide, and rituximab for rapidly progressive interstitial lung disease in a patient with clinically amyopathic dermatomyositis.  
Mod Rheumatol. 2015 Jun 29:1-2.



11月某日・朝 見事に色づいた銀杏の大木と医学部6号館